

平成31(2019)年度伊丹市立松崎中学校 自己評価

1 校訓

盡己

2 学校教育目標

すべてのことに全力で取り組む生徒の育成

3 本年度の経営方針

校訓「盡己」の具現化をめざして、授業、行事、部活動を教育活動の3本柱とし、「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒を育成する

4 自己評価結果

目標	評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点 の評価	目標達 成度	課題・改善方策
	①学力が身につく 授業実践	教員の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会を定期的にもち、よりよい授業を目指して教科内で協議した。 ・全教員が公開授業を実施した。 ・成果としては、「授業は楽しく、わかりやすい」という間に肯定的な回答をしている生徒が30年度は76.6%であったのに対し、31年度は78.5%と、約2ポイント向上している。「先生はいろいろ工夫して教えてくれる」という間に肯定的な回答をしている生徒が30年度は85.7%であったのに対し、31年度は89.3%と、約3.5ポイント向上している。「授業内容でわかりにくいことについて、先生に質問しやすい」という問いに肯定的な回答をした生徒が、30年度は69.7%であったのに対し、31年度も69.7%と同数であった。 	3		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の生徒アンケートにおいて、「授業内容でわかりにくいことについて、先生に質問しやすい」という問題の対する肯定的な回答が昨年度と同じであった。生徒がより質問しやすい環境を整えていく必要がある。 ・新しい研究テーマが教職員のなかでイメージしづらかった。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の学力の定着。 ・小テストの実施。 ・小中連携の強化。 ・生徒の理解が深まる授業作り。 ・教職員が具体的にイメージしやすい研究テーマへの改良。
計画性を持った研修の実施		<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の幼稚園、小学校教員との合同研修会を実施し、校種間の指導の継続性を図った。 ・SCIによる研修を行い、さまざまな特性を持った生徒を理解して、指導できるように共通理解を図った。 ・道徳の教科化に伴い、評価の研修を行った。 ・QUを年に2回実施(6月・11月)し、6月の結果をもとに、QUを生かした生徒指導、学級経営について、指導主事を招いて研修を行った。 ・教科部会(月2回)を設定し、指導案の検討や授業計画について教科内で検討できるようにした。 ・プチ研を企画し、校内の若手教師のための研修を行った。 				
生徒指導が機能する授業実践		<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導が機能する授業を実践しているか」という問いに対して、教師の肯定的な回答が91%であった。また、「授業は楽しく、わかりやすい」「先生はいろいろ工夫して教えてくれる」という問いに対する生徒の肯定的な回答が向上していることから、授業において、生徒指導が実践する授業ができていくことがわかる。 ・新しい指導案の形式を活用して、生活における「つながり」と「深まり」が感じられる指導案を作成した。 ・全教室にプロジェクターと書画カメラを設置し、ICT環境を整備した。 				

「一生懸命勉強する」生徒の育成	②読書活動	図書室の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンターを整備し直し、貸し出し窓口と返却窓口を別にし、生徒の導線を変更することにより、利用しやすくした。 ・室内掲示物のフォントサイズを大きくしたり、書架に表示する十進分類番号を簡素化したりし、ユニバーサルデザインを意識した合理的配慮を実施した。 ・図書館教育担当教員と学校司書とさらに連携し、10冊借りた生徒にオリジナルしおりをプレゼントするなど、生徒に達成感を持たせる工夫を行った。 	3	<p>3</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は朝の読書や、図書室の利用などに力を入れている」と肯定的に回答した生徒は77.6%で、前年比-1.9%だった。「学校は読書に親しむ機会を設けている」と肯定的に回答した保護者は76.7%で前年比-4.74%だった。生徒のポイントが下がった理由として、質問文が朝読書を含めて聞いているからで、朝読書に課題があるかを検討する必要がある。保護者のポイントが下がった理由は、今年度は図書館だよりを各学期に1度しか発行していないので、図書館教育の取り組みが保護者に十分周知できていないことが要因の一つと考えられる。 <p>【改善方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書を校務分掌上に位置づけ、担当を中心に課題を掘り起こす必要がある。 ・図書館だよりを発行する必要がある。 <p>進路学習</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生の生徒や保護者に進路の情報を詳細まで伝えられなかったこと。1年生の時から基本的な進路指導、例えば公立と私立の違いや、専願と併願の違いなどは知識として必要。 ・3年生になって、今勉強していることが高校受験に直結する意識を持つ生徒が多いように感じる。 <p>【改善方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から段階的な進路指導をすすめること。 <p>学習タイム</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃後に授業をするので、きれいにした黒板を汚すことになる。 ・短い30分間での授業展開や、効果的な指導法について研究する必要性。 <p>【改善方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板を使わない指導法の開発。 ・可能であれば、6校時・学習タイム・掃除の時程にする。 ・30分で学び、家庭学習の中で身につける指導法の提案。 ・研究推進委員会との連携も視野に入れたい。
		読書量の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と今年度の、4月から12月までの貸出冊数を比較すると、昨年度5887冊で今年度は7219冊。+1332冊で、読書量は向上している傾向にある。一昨年との比較では+2286冊となり、2年連続で増加傾向にある。 ・今年度も図書館まつりを7月と12月の2回実施した。図書委員の生徒が積極的に活動し、学校図書館の利用促進につながっている。 		
	③進路指導	進路指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任が全員3年担任経験者という強みを生かしながらも、年々微細な部分に変化する高校入試制度に柔軟に対応するため、共通理解事項を設けてそれに沿って動くようにしている。 ・進路指導担当に任せきりにしない意識を持ち、県外公立受験など手続きが複雑な場合は担任と進路担当と共働してすすめていった。 ・担任ひとりではかかえない、何事も相談しやすい環境(雰囲気)を作った。 	3	
		生徒・保護者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を5回実施し、早い段階から家庭で進路の話を進められるようにした。 ・進路通信を不定期に発行し、オープンハイスクールの詳細な情報をリアルタイムで発信した。 ・保護者を対象とした進路説明会を2回実施した。特に2020年度に制度改正のある、高等学校就学支援金制度についての説明については個別に対応するなどきめ細かに行なった。 ・学校厚生会OHS保険の周知と、説明会開催、集金送金業務、奨学金の案内と手続き、進学先の高等学校への決定通知送付等、各種手続きの代行を行った。 		
④学習タイム	系統的・継続した実施	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期2回、テスト前6日間実施した。 ・3年生のみ授業時数確保のため11月下旬より断続的に学習タイムを実施した。 ・生徒はテストに向けて意欲的に学習に取り組めた。 	3		

目標	評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善方策
「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成	①部活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動数19は市内最多であり、活発に活動している。 ・総合体育大会では阪神大会出場9、県大会出場4と好成績を残した。 ・ノ一部活デー(毎週平日と休日に1日ずつ)を設定して、適度な休養を設け、けがの防止や効率的な体力の向上に努めた。 ・校長室前に表彰状の写真を掲示したり、生徒下足場の掲示板に部活動ごとの結果を掲示して広報した。 	4		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入部率が昨年度73.9%から、本年度81.9%に上昇したが、途中退部する生徒も多くみられた。 ・自己存在感を育てる場面設定が十分にできていない。 ・ノ一部活デーが増えたため、継続的な指導による技術の向上が難しくなっている。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の意義を伝え、入部後は継続する事により得る力や達成感、充実感を感じられるように指導する。 ・部活動で身につけた体力、忍耐力、自身を授業や行事につなぐことができるよう、技術指導だけでなく、教師の意図的、系統的な人間形成に向けた指導を行う。 ・参加する大会や行事の精選が必要である。
		部活動をととしての仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・入部率81.9%で、日常の活動だけでなく、夏祭り、餅つきなどの地域行事に参加するなど、地域の小学生や大人との交流ができた。 			
	②学校行事	生徒の自己存在感、充実感、達成感の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事は楽しい」と解答した生徒は91%となっており、多くの生徒が前向きに取り組むことができた。 ・「子どもは学校行事に積極的に参加している」と回答した保護者は93%である。前年度おほぼ同じである。「学校行事に参加し、子どもの様子をみている。」と回答した保護者は89%であり、前年度より3%増加している。 ・「学校行事が生徒にとって価値ある体験になるよう工夫・改善を行った」と回答した教師は97%となっており、生徒の自己存在感、充実感、達成感を育成するための手立てを考えて実施できたと考えられる。 	4		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者と教師がより自己存在感、充実感、達成感を感じるための行事の育成。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師主体ではなく、生徒主体になれるような企画と行事の立案。 ・行事を通した学びを発信する機会の確保。また、発表会等の生徒主体の運営。

③生徒指導	生徒指導体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の空き時間における校内巡視の見直しを行った。 ・スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、関係機関と連携して生徒と関わりを持つことができた。 ・ふれあい相談員を活用し、校内巡視、家庭訪問、別室対応など多岐にわたって連携することができた。 ・週1回の生徒指導委員会での内容を、学年会等で情報共有し、共通理解のもと指導、対応することができた。 ・生徒情報フォルダを作成し、どの職員も個々の生徒への指導内容を把握することができた。 ・担任や部活動顧問だけが抱え込むのではなく、学年生徒指導、学年主任、生徒指導主任、管理職が連携し、組織的な対応を行うことができた。 ・風紀委員会と連携して校則の改正をすすめることができた。 	3	
	いじめ、問題行動への迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回いじめアンケート調査、教育相談を行い、生徒の実態把握に努めることができた。 ・いじめ対策委員会を定期的に開催し、学年の現状を情報共有したり、今後の取組について協議することができた。 ・いじめ防止強化週間(年2回実施)では、生徒会本部と連携して挨拶運動(グリーティングフラワー)や、学級での交友行動を通じて生徒の仲間意識を向上させることができた。 ・携帯、スマートフォンによるいじめ、問題行動防止に向けた講演会を2回実施した。また、近年増加傾向にある薬物の使用を防止する講演会も実施した。 ・週に1回、生徒の心境を知る(ニコちゃんマーク)ことで、トラブルの未然防止や心の変化に気がつくことができた。 ・いじめや問題行動が発生した際は、職員間で連携して被害生徒、加害生徒への聞き取りを行い、再発防止に努めた。 		
	不登校への計画的な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携しながら、個々の生徒に合わせた指導を行うことができた。 ・別室の個別ブースを、使用目的に沿うように設置しなおした。 ・別室利用するにあたっての流れ(手順)を明確化した。 ・別室登校や時差登校をすすめ、登校を促すことができた。 ・別室利用生徒一覧表を作成し、別室利用生徒の状況を全職員が把握できるようにした。 ・別室利用の生徒向けに、記録表を作成することで、担任、生徒指導担当が別室登校生の学習内容を把握しやすくなった。 		3
	家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・電話連絡、家庭訪問、教育相談等を徹底することができた。 ・生徒の学校での様子、家庭での様子を情報共有することができた。 		

<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席者(20日以上欠席)の数が58人(R1.12月末現在) ・「学校へ行くのが楽しい」と回答した生徒の割合が80%(5人に1人は楽しくないと思っている)であった。 ・「先生は一貫した適切な指導を行っている」と回答した保護者の割合が71.6%であった。28.4%の保護者が否定的な考えを持っている。 ・「子どもの生活の様子等をよく把握している」と回答した保護者の割合が87.2%であった。12.8%の保護者が否定的な考えを持っている。 ・「学校は、問題行動に対する指導体制が整備されている」と回答した教師が69%であった。31%の教師が否定的な考えを持っている。 ・いじめ、問題行動、SNSによるトラブルが依然として発生している。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席者については学年職員を中心に本人、保護者との面談を通知別室登校、時差登校、関係機関との連携による心のケアを促し、登校につなげる。 ・生徒が学校に前向きな気持ちになれるよう、複数の職員で多方面から個々の生徒に関わるよう心がける。また、傾聴的な姿勢で生徒と接し、生徒との距離を縮めていく。 ・学年会や職員会議の際、生徒指導委員会で協議した内容(他学年の生徒の様子、他校の生徒状況等)を情報共有する。 ・研修会等を実施し、生徒指導体制の確認や改善を全職員で定期的に行う。 ・職員が協力し合い、授業や学校行事を充実させ、生徒1人1人の集団意識を自覚し、心を耕せるよう努める。 ・市教委、子ども福祉課、愛護センター等、関係機関との連携を密にしていく。

④教育相談	生徒理解のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回教育相談週間をもうけ、事前に記入した教育相談アンケートをもとに担任が面談を実施し、生徒のメンタル面の状況把握に努めた。 ・一昨年まで年1回の実施であったQUを6月と11月に行い、生徒の心的変化の早期発見につなげるようにした。そして、これらの情報を学年会議などで共有を図っている。 	3	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生は生徒の悩みや不安に対して相談ののってくれる」というアンケート項目に対する肯定的な回答は約85%と昨年とほぼ同様である。これに対して保護者に対する「学校に子どものことについて相談できる先生がいる」という項目の肯定的な割合が65.4%と昨年より6%低下した。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対しては引き続きあらゆる機会を通じて、本校の相談体制の説明を行う。 ・教師側は一人ひとりが自発的な研修等を通じて見識や視野を広げ、教養を深めることでより深く生徒との信頼関係を構築できるように努めた。
	スクールカウンセラー等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者に対するカウンセリング、教師へのコーチングを週1回の訪問日に行い、適切な助言を受けることができた。 ・一昨年から派遣されたSSWによる教師への助言、ケース会議の実施、週1回の生徒指導委員会での情報提供などで就学困難生徒への援助をより細かく実施することができた。 ・さらに、伊丹子ども福祉課、川西子ども家庭センターとも連携を密にすることができた。 		
⑤特別支援教育	指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターを中心に教育支援委員会を開催し、支援の必要な生徒の実態把握を行った。また、支援の必要な生徒については、発達検査を受けたことがあるか確認し、支援内容の検討を行った。 ・特別支援教育支援員が、通常学級での支援を要する生徒に対して計画的な支援を行い、支援状況を学級担任に活動報告として伝え、担任が学級指導に活用した。 ・特別支援教育支援員の報告を受け、特別な支援が必要であると思われる生徒に関して、担任や学年と相談し、今後のより適切な指導のために発達検査を受けられるよう、担任や学年と相談し、今後のより適切な指導のために発達検査を受けられるよう、 	3	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常学級における要支援生徒に関する個別の指導計画の作成が、特別支援教育支援員の関わる生徒と、保護者の希望する生徒のみになっている。 ・個別の指導計画が、支援対象生徒に対する継続した支援に充分活用するには至っていない。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画を学年会、校内研修会で活用しファイリングすることにより、3年間で個別の教育支援計画として、進路先に引き継ぐことを徹底する。 ・小学校からの引き継ぎでは個別の指導計画を持っていない生徒でも、その困難さを共有していく必要があると認められる生徒については、新たに作成していきけるよう、担任や学年にその手順を示しておく。
	個別の指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の生徒、通常学級における特別支援教育支援員の関わる生徒、作成を希望する保護者の生徒については、個別の指導計画を作成した。 ・作成した個別の指導計画は、3年間の支援内容と成長の記録を卒業時にまとめ直し、教育支援計画として進路先に引き継いでいる。 		
⑥生徒会活動	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営への参加、伝統の継承で自己有用感や学校の一員である自覚を育成した。 ・毎朝、生徒会役員が挨拶運動や校歌の放送、国旗・市旗・校旗の掲揚を行った。 ・各クラスの評議と美化委員は朝清掃を、風紀委員は挨拶運動を曜日交代で行った。 ・自治活動の継続のため、全校集会の司会、整列・退場指示を生徒会役員が行った。 	3	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント時のみ意識したり、形骸化している取り組みがある。 ・生徒一人一人が、目標を達成するため意識を高める必要がある。 ・学習環境、読書について否定的な意見が2割近くある。 ・思いやりの心や自尊感情を高める取り組みが弱い。 <p>【改善方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みについては、廃止・改善を生徒が主体的に考えるよう促す。 ・できていない事より、できている事を取り上げる仕組みを作る。 ・学習委員会を中心に学習環境の改善を促す。 ・図書委員会を中心に読書の活性化、取り組みを保護者に知らせる。 ・特定期間だけでなく、普段から思いやりの心を育成する機会を生徒と職員が連携して作る。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会本部や各委員会が主体となった取り組みを進めることで、企画力や計画性をもったリーダー育成を目指した。 ・いじめ防止強化週間で「Greeting Flower」および「Greeting Letter」を企画・実施した。 ・体育大会では、「生徒会種目」を新たに企画・運営した。 ・行事での進行や毎月の評議専門委員会を計画的に実施した。 <p>生徒会や委員会の活動が学校生活につながることを意識づけ、積極的に生徒会活動に参加・協力できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会で採決をすることで、全校生徒が生徒会の一員であること意識づけた。 ・もぐもぐタイムの廃止などの生徒の意見が反映される取り組みを行った。 ・各委員会で点検活動やイベントの企画、活動内容の見直しを行った。 		
⑦健全な食生活	早寝・早起き・朝ごはんへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・横断幕を掲示し、生徒、保護者、市民への啓発を行った(すこやかネットまつぎ)。 ・給食指導・教科指導において、バランスのよい食事について食事指導を行った。 ・伊丹市給食献立コンクール、おむすび・お弁当コンテストに参加した。 	3	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に比べ、「学校は、早寝・早起き朝食をとるなど、規則正しい生活を心がけるように呼びかけている」という質問に対し、とても当てはまる回答した生徒は約9%減少したが、やや当てはまるを含めると80%を超えており昨年度と大きな変化はない。一方で、否定的な回答する生徒が18%おり、呼びかけをするなどして朝食をとる習慣を身につけさせる必要がある。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAと協力して、早寝・早起き・朝ごはんの啓発活動を行う。

目標	評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善方策
開かれた・信頼される学校づくり	①学校運営協議会	学校経営への意見反映	<ul style="list-style-type: none"> CSディレクターを配置した。 地区会長、地域コーディネーター、主幹教諭、PTA副会長をメンバーに追加し(7名→11名)広く意見を伺った。 2学期には臨時会を2回開催したが学校課題に関する情報提供のみで、熟議や研修会を実施できなかった。 年度当初、松中ブロックの小学校との合同研修を実施しネットワークを広げた。 次年度の学校経営方針について協議し承認を得た。 	2		【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会について、教職員、保護者の理解度が低い。 学校の現状に関する情報をさらに発信し、熟議に努める。 【改善方策】 <ul style="list-style-type: none"> 教員や地域の方と共に(コミュニティ・スクール)に関する研修を実施する。 CSディレクターをさらに活かした運営を行う。
	②学校評価	PDCAサイクルの実行	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価資料として、6月に自由記述も含めて個々の教員の授業アンケートを実施した。 生徒の声を各教員の授業改善に反映することができた。 学校評価資料としてのアンケートを、昨年度と同様に実施した。 校長による分析を、職員会議等で共通理解し、各分掌において成果と課題を検討した。また、生徒、保護者の結果については経年比較を行い、現状の把握や学習指導及び生徒指導の改善に活用している。 	3		【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 学校評価結果をもとに、各分掌で検討した内容を共通理解し、次年度の年間計画に反映させ具体的な学習指導や生徒指導として実施していく必要がある。 【改善方策】 <ul style="list-style-type: none"> 行事や研修会毎のアンケートを活かし、次年度に向けて引き継ぎ改善していく。 学校評価結果を共有し、年間計画等を組んでいく必要がある。
	③保護者・地域との連携	地域への公開、参観授業の実施 生徒、教師の地域行事への参加 学校からの情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観及び土曜オープンスクールの実施。(授業参観年1回、土曜オープンスクール年2回) 保護者の学校行事への参加が前年度より上昇した。(H31年度89.1%、H30年度86.3%) 松中地域ボランティアサポーター制度により、部活動生を中心に「夏祭り」や「餅つき」など、地域行事への計画的な参加ができた。(2学期末現在 延べ参加者数は155名) 生徒の地域行事への参加の向上。(全国学力・学習状況調査「今住んでいる地域の行事に参加していますか」H31年度42.3%、H30年度33.7%) 教員の地域活動への参加 学校だより、学年・学級通信、保健だより等の定期的な発行、及び学校HPへの掲載とこまめな更新。 学校だより、学年通信の掲示板への掲示。 学校運営協議会における、学校教育活動に関する情報提供と共通理解。 校区内3小学校地区会への出席と、学校教育活動に関する情報提供。 	3		【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 部活単位だけでなく生徒会や有志による地域行事の参加方法を検討する。 各家庭への情報発信の工夫と促進。(「学校は学校の情報を学校便り、学年便りやホームページ等」を通じて 保護者に伝えている H31年度91.2%、H30年度94.4%) 【改善方法】 <ul style="list-style-type: none"> PTAとの連携を図り、案内や周知の工夫を図る。 講演会、出前授業等を公開する。 ミマモルメへの加入の促進。 学校HPの適切、かつ、効果的な活用。 終礼時における配布物の確認。

※ 項目の評定については、生徒、保護者、教師のアンケート結果等から判断し評価する
(4:達成されている 3:ほぼ達成されている 2:あまり達成されていない 1:達成されていない)

4 自己評価における特記事項

・生徒アンケート結果(全学年)の経年比較(H29→H30→R1)

「学校へ行くのが楽しい」 84%→80%→82%
「学校行事は楽しい」 92%→91%→91%
「授業はわかりやすく楽しい」73%→77%→78%
「先生は生徒の悩みや不安に対して相談にのってくれる」79%→86%→85%

・「学校へ行くのが楽しい」はやや回復傾向が見られる一方、「学校行事は楽しい」が90%台で高止まりしている。「授業がわかりやすく楽しい」が1ポイント上昇し、「先生は生徒の悩みや不安に対して相談にのってくれる」は1ポイント低下した。

・自己有用感を上昇さらに上昇させるため、個々の生徒へのカウンセリングマインドをもとにした丁寧な対応や、授業改善の工夫が求められる。

・講義形式の一斉指導型の授業を改善し、わかりやすく楽しい授業展開をすることで、行事だけでなく「学習が楽しいから学校が楽しい」と感じさせるような授業改善のさらなる工夫が必要である。